=== 日程第3 一般質問 ===

議長（村松 積） 日程第3、一般質問に入ります。

今回は6番、宮嶋清伸君、4番、宮嶋怡正君、1番、小池昌人君、3番、金田憲治君、2番、串原寛治君、以上5名から通告されております。

宮嶋清伸

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

宮嶋清伸君。

6番（宮嶋 清伸） 6番、宮嶋清伸です。

今回私は、全国的世界的規模で政府や企業に、強いては家計にも大きな打撃を与えたサブプライムローンの影響をもろともしない健全財政を行い、毎年企業でいう黒字経営を行っている下條村に対して、基金創設の提案と今年度よりスタートしたCATVについてお聞きします。

まず、村営住宅修繕解体基金創設について提案し、村長のお考えをお聞きします。

下條村には、11のメゾンコスモスがあり、また戸建て住宅も多くあります。建設を進めるに当たり、いつも聞こえてくるのは「何十年か後に壊すのにお金がかかる。修繕にお金がかかる」といった声です。そんな心配をしなくてもよいように、修繕解体基金の創設を行ったらと私は思います。

現在、既に32億円余の基金があり、現在の状況でいけば毎年確実に基金が増えますが、村長のお考えをお聞かせ願います。

次に、CATVホームページの充実施策についてお聞きします。

本年度より本格化したCATVですが、現在のところ各種イベントを録画したものを音声告知により放送時間を流し、見ることはできていますが、それ以外は飯田ケーブルの放送が流れています。番組表もなく、チャンネルを合わせたとき流れているものを見るといったものになっております。

現在、テレビ局は不況の打撃を受け、大幅な経費削減を進めており、同じような出演者による同じような番組ばかりになり、またフリーのアナウンサーから局アナに変更する現象が起きております。

こんな時こそ、下條村独自の番組編成を行い、常に村内のイベントを流したらと私は思います。

また、音声告知で放送したものを文字放送で流したり、番組表も流すことにより、より身近に親しまれるCATVになると私はと思いますが、村長のお考えをお聞かせ願います。

通告の最後にありますホームページ充実施策ですが、議会中継のインターネット発信については、現在既に発信されており、世界中で見ることができるようになっておりますので、ここでは質問いたしません。が、昨夜下條村のホームページを見ましたら、人口、世帯数も平成21年12月1日現在のものがあり、12月4日に図書館からのお知らせと新型インフルエンザワクチン接種についての新着情報があり、またイベントカレンダーは12月の9日の11時20分に更新されており、全国から常に注目される下條村の職員各位には敬意を表したいと思います。

これ1つ注文するとするならば、ホームページの中に村長の写真とあいさつがないということがありまして、やはり全国から下條のホームページを見たときに、村長の顔写真とあいさつがあったらと私は提案しまして、以上で質問を終わります。

議長（村松 積） 答弁願います。伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 宮嶋議員の質問にお答えいたします。

前段が住宅の問題、これの住宅というのは当然償却するわけございまして、その入れ替えの費用というのをどうするんだという改築、改修の費用はどうするんだというようなことでございます。

住宅というのは、その長年にわたる計画を大きい計画の中から先ほども言いましたように、どうするかという判断すべき問題でございます。そのために、住宅の今の施策の概要というのをもう一度皆さんで再確認しなければいけないと思っております。

今、予算書でもご承知のように、住宅の家賃というのは年間7,440万円くらい入ります。この中には当然光熱費だとか、それから下水処理2つで440万円くらい。それからそして修繕費が560万円計上してあるところでございます。

これは計上していったこいという数字でございますけれども、どちらにいたしましても、今までだいが造ったということございまして、いくなれば7,440万円というのは今の12戸建てを造ろうと思えば1億1~2,000万円でかかると。1億1~2,000

万円で1,000万円が2,000万円できるといってございまして、新たに造ろうと思えば4,500万円くらいあれば12戸建てができるということまでまいったわけでございます。

これは相当金が入るようになったなということではなくて、この7,400万円というのは副産物でございます。たまたまだいぶ造ったために家賃が入るようになったと。これ副産物でございまして、主体はより優秀な若者に入ってきていただいて、それと村内の企業、それからまたは村外を取り巻く近郊の企業の体質強化だとか、それから出生率を上げるんだとか、それから村内に人が増えることにおいて産業構造が活発になる。流通機構を含めて活発になるというのが、これ第一義的な目的でございまして、それは今のところ十分果たしておると思います。

なぜ十分果たしておるのかということ疑問に思うわけでございますけれども、なかなかこの施策はほかの町村でやろうと思ってもやれなかったという現実。今も細々とやっておるわけでございますけれども、さりとて下條村がいつまでもこれができるかできないかというのは私たちのいかに緊張感を持ちながら、前向きな思考の中で構築していく村づくりにあるかというこの両面でございますので、そんなこともここで確認していただきたいと思えます。

それでこの住宅のことでございますけれども、非常に井戸端会議的に「造りゃ金がかかるじゃないか」なんてという、その全然理論に乗らない議論を平気でやるところがあるわけでございますけれども、これは悲しいことかなと思っております。前の議会でも1人そういうお方がおりまして、「建物を造るといことは負の資産である」とこういうこと。そうすれば建物は造らない方がいいわけでございますし、皆さんも減価償却するような建物の中に住むんでなくて、シートでもかぶしてやればいいわけでございますけれども、これなかなか説得するに三月くらいかかりました。

彼の頭の中には、「減価償却があるじゃないか。これ国で認められておる」と。木造の住宅ならば22年から24年の間に減価償却をなさいよと。そしてコンクリートの建物の場合は、42年間のうちに減価償却してもいいですよ、いいですよということ。これは税法上の問題であって、皆さんの家庭を見ても、24年で木造建築全部壊して、そしてまた建て替えるかなんていううちはこうやって見てもほとんどというか全員おらんな。2

4年たちましたと。あれは税法上の優遇措置であって、例えば企業が木造の事務所があったとすると、その木造の事務所は24年間のうちに減価償却してもいいですよと。資産が1割の評価でいいですよということになると、企業は非常にありがたいわけでございます。その無駄がこのストックがなくて、もう資産ほとんど1割の中で自由闊達にできるということでございます。

コンクリートもそうでございますけれども、47年でそうすると31年だと16年でこれ壊して建て替えにゃいかんというふうに勘違いしておるということでございます。

私も過去にも皆さんにお話ししたと思うんですけれども、コンクリートのはたして期限はどのくらいあるかということをやったら、引く文書引く文書が全部違っております。それとコンクリート打った時代、今から50年80年100年前にコンクリートを打った時の品質管理のやり方、全然養生の仕方全然違うわけでございますけれども、1つの例としては、下條村120年いつも引用するんですけれども、東海道本線ができた時が120年前、明治22年、東京・大阪間が貫通したわけでございます。

たまたま4日5日前に私は三遠南信の提言で、東海道の新井地区、浜名湖の中へずっと水の上を東海道線が通っておりますけれども、そこの町長さんともお会いしました。「おい、こういう問題があるんだけど、コンクリートの耐用年数はどのくらいだ」と言ったら「どのくらいに考えておる」と言ったらあれはばかに大規模な橋台を補強したことがないし、そんなことも記憶にないんですけれど」というもので、私もたまたまゆっくりではないんですが、東海道線はほとんどゆっくりになりましたので、見てまいりました。見てというかまいりましたら、橋台はほとんど石でございます。その中でまた石の中に石膏詰めてこう積んでおるといようなこともあるわけでございますし、短い方へいきますとコンクリートでございます。

それでこの前もちょっとある議員さんと一緒に刈谷市行ってまいりました。久しぶりに刈谷の駅へ寄ったわけでございます。私はなぜ駅へ寄ったかということ、10年ばか前に駅のホームを見てまいりました。引き込み線なんかもうほとんど昔のコンクリートでございます。何となく120年たっても何ともないということで、これを確認してまいりました。

そしていつも引き合いに出す万才橋、あれは昭和10年でございまして74年経ってお

ります。あの大橋の下の橋でございます。あれは下からのぞいたことはないんですけども、欄干は風雪にさらされて一部壊れておるところもございますけれども、路盤は何ともないわけでございます。

白又橋でございますけれども、昭和17年にできました。これは下へ行って皆さんぜひ今日見ていただきたいと思うんですけども、真っ白でございます。何ら打ったそのまんまの姿でおるわけでございますし、その路面を通ってみてもぐたくたしておるんでなしにビーンとしておるということでございます。

あれらは本当に風雪にさらされて、そして灼熱の太陽だとか非常に厳しい寒さの中に耐え、しかもその上をぶんぶんぶんぶん今バイパスができましたけれども、20トンも25トンものダンプなんかがさんざん通った道でございますけれども、それが67年たってもびくともしていないということ。万才橋も74年、あれが主要道路でございましたので、何ともないということでございます。

はたして木造はそろそろそのことを考えなければいけないんですけども、私はこの構築物は今野ざらしでなく屋根が躯体は全部コンクリートででき、こういうふうにつけておって、これ屋根いらんじゃないかなという、その上にガルバニウムの屋根をかけて、そして周りは全部タイルで囲ってあります。風雪にさらさないために。中の重量なんていうのは知れたもんでございます。

それを早く47年たったで、そろそろ壊そうと思ったって壊れるようなもんじゃないと思います。なぜといえばここにプロもおりますけれども、全然コンクリートを造る時のもう管理体制が違うわけございまして、昔ならパイスケでやってちょっと足りにゃもうちょっと色が悪いぞというくらいで、セメントをぶち込んじゃがらがらやったもんでございますけれども、今なんかもうコンクリートはぴしとして、それで砂でも同じ砂で若干水分が含んでおるなと思うと水分補正をして、そしてその決まった強度が出るようにきちんとやって、それから1時間以内に必ず現場へ届ける。そしてそこで現場で使用するということでございますので、私は相当ロングスパンで考えるもんであると思います。

そこでそれにしてもかかるわけでございますけれども、それが80年先か100年先か分かりません。

あの霞ヶ関ビルというのはありますけれど、いまだ日本で一番最初に高層ビルが霞ヶ関

ビルでございます。これ私はあそこのシェルの4階から8階までメジャーが借りておるわけございまして、そこへ行ったことがあるんですけども、いまだに倒れるような様相はございません。

そこで今言ったように、今公共施設整備基金というのが5億2,700万円積んであります。特目で。その他どうしてもといえば財調も15億いくら積んであるわけございまして、総額30億円を超しておるわけでございますけれども、まだもう少し先の話かなというふうに考えております。

仮に1棟やるとすれば、1棟今の木造住宅壊すとするならばそういうことございまして、決して腰の抜けるような問題じゃないということと、どうしても壊したかったら1,200万円くらいあの集合住宅はかかるわけでございます。あれは別に無理して壊すことがないわけでございますので、もうすこしロングスパンの中で考えていくということと、あまり特目を作ってしまうと、この資金運用のときに資金運用ということは預金のときにロットが高いと金利なんかしれたもんですけれども、ロットが大きいと金利は大きくなるということございまして、今から仕分ける必要はないと思っております。

次に、CATVでございますけれども、番組構成でございます。今いろいろ言われました。去年というかまだ8カ月でございまして、いろんな問題点があろうと思ひまして、今その問題につきましても今度は特別委員会なんか作って、いろいろ今の問題を集約しながら、きっちりやっつけていかなければならないと思っております。

今言われたように、村ではケーブルテレビ、これは私は委託して正解だったと思います。今14町村ありますけれども、その中でケーブルテレビ、地元のテレビにやらして良かったなという声は相当あるわけでございますけれども、スタートでございますので、村民のチャンネル見ておる番組表まだできていない。そしてやると、運動会なんか一週間くらいだかだかだかだかやっておる。あれ編集して見ろと言うんだけれども、あの前までうちの子供が出ておったけれど、うちの子供の前で切られちゃってまたよその子供が出たなんていうのが、井戸端会議型がおりまして、なかなか難しいわけでございます。

それにしてもそういうのを集約、いろいろお聞きしながらやっつけていかなければならないと考えております。

文字放送についてもそうでございますけれども、あれ文字放送と映像と一緒にやるとい

うのは相当な技術がいるそうでございますので、そこらも含めてまた議員のご意見をお聞きし、ケーブルテレビのご意見もお聞きし、それから委員会を私はどうしても作らなければいけないと思うので委員会の皆さん、それからこっちのスタッフ、これらも含めて前向きに、そしてより簡潔に、そして見たいものを見たいときに見れるんだという計画性のあるものに段々していくつもりでございますけれども、まだ初年度ということで試行錯誤。

それで基本的には間違っていないかと思うんですけれども、これからいかに使いこなすかという時代でございますので、そんなことでご理解いただきたいと思います。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、再質問ありましたら。

6番、宮嶋清伸君。

6番（宮嶋 清伸） 基金のことについては、私も同じような意見は持っていたんですけど、村長の答弁いただいて安心したところです。

先日、山田河内の地域要望の中で、「戸建て住宅を売却をしてほしい」というような意見があって、以前確かやったんですけども、誰も応募がなかったと思うんですけど、そこら辺は住民の方から「買いたいよ」という声があれば対応していただけるのかな、どうでしょうか。

村長（伊藤 喜平） 確かにありました。

地域要望を今まとめておるところでございます、それはそれとして来年度の予算編成、またできるものは3月までにやりたいなという姿勢で、「今早くまとめてくださいよ」ということで指令出してあります。

その中で確かに出ました。私どもは過去に2回ほどやったと思います。今までの家賃分は全部差し引いてやるから、家賃の残りで誰か買わんかということでございますけれども、ちょっと今景気が悪いときでございますけれども、またもう少しプレミアムつけてでもいいわけでございますので、特にあの学校の下、あれらはできれば売っちゃいたいなということを考えております。

やはりこの今も扱いは大事にやっておってくれるんですけども、物事は自分のものになったというこの占有権、自分の財産だというものがあれば、また若者は心構えが違ってくるということでございまして、そうした面も含めてもう一度も二度もやってみたいと思っておりますので、よろしくご理解いただきたいと思います。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君。

6番（宮嶋 清伸） それと最後に質問の中で最後にしたんですけれども、下條のホームページがすごく充実して、予算の方もしっかりつけていただいて、今スタッフ、職員の方が一生懸命更新したりいろいろ工夫してくれているというので、すごく私は見て「良くなったな」という実感。

それとやはり私の知り合いなんかもだいたいみんなホームページを見て、私ども今度議会でも研修行きますけれど、そうするとホームページを見てその地域はどういうとこかなというのやっぱ研究しますので、やはり下條の顔である伊藤村長の顔写真とメッセージをぜひ入れていただきたいと思いますけれども、それについて村長はどうお考えでしょうか。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 写真のこと俺の方から言うわけにはいかんで、職員にしっかり言ってもらうということと、飲み屋いくといろいろ「あれ、テレビに出た村長さん」というふうにだいが言われるようになりましたので、これからは言動、挙動には気をつけなければならぬと思っております。

それとホームページ、これは相当予算も組んで、あれはプロフェッショナルの指導がないとなかなかできないわけでございます。それに優秀な職員が一生懸命ついて頑張っておるということでございまして、私びっくりしたのはトーア電子でございます。「社員募集なんか村でも相当やってやるでな」といったら、トーア電子のホームページではほとんどこの情報で、あれでどんどん集まってきて、チラシをまいたで人が来るとかそんなものは時代古いそうございまして、なるほどな、こういう時代になったのかなと思って感心したことがあるわけでございますので、そうした情報発信というものについてもこれから一生懸命やってまいります。